

愛知学院大学歯学部倫理委員会

令和2年度第3回会議 次第

令和2年 9月3日(木) 15:00～

I. 報告

1. 令和2年度第2回倫理委員会議事録(案)
2. 委員長決裁について(3件)
3. その他

II. 協議

1. 委員長決裁案件について(上記報告の3件)の承認
2. 新規申請の審査(4件)
3. 副委員長の選任について
4. その他

歯学部倫理委員会 名簿

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	2019.4.1～2021.4.1
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
○	長谷川 義明	微生物学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
◎	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	杉田 好彦	口腔病理学講座准教授	〃	2019.12.1～2021.4.1
	長尾 徹	顎顔面外科学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	2019.4.1～2021.4.1
	野本周嗣	外科学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	田淵 雅子	歯科矯正学講座准教授	〃	2019.12.1～2021.4.1
	高木 敬一	法学部教授	規程第4条(3)倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者	2019.4.1～2021.4.1
	黒神 聰		〃	2019.4.1～2021.4.1
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)研究対象の観点を含めて一般の立場から意見を述べることのできる者	2019.4.1～2021.4.1
	鏡山 典子	愛知教育大学教育 学生・国際課 なんでも相談室	〃	2019.4.1～2021.4.1
顧問	鈴木 慎太郎	法学部教授		2019.4.1～2021.4.1

令和2年度 第3回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	長尾徹
	研究課題	口腔外科診療における新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート調査
	概要	<p>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、飛沫感染やエアロゾル感染の危険性が高く、歯科・口腔外科領域においても多大な影響を及ぼし、診療制限や予定手術の延期などの対応を余儀なくされてきた。さらに、口腔がん、顎顔面外傷、炎症など、口腔外科領域において待機できない手術においては、COVID-19を念頭に入れた管理が必要とされた。当然のことながら、この新たな挑戦に対する明確な対応方法やガイドラインはなく、各診療施設での判断が必要とされた。今回我々は、愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座とその関連病院において、政府緊急事態宣言中に口腔外科治療がどのような影響を受け、どのような対応を行ってきたか、また各病院のCOVID-19への対応方法への対応方法はどのようなものであったかアンケート調査を実施し、そこで得られた情報を、近い将来訪れる可能性が高い第二波、第三波における口腔外科医療体制のありかたの参考資料になればと思われる。さらに、遠い将来においても、このような世界的脅威が再度訪れた際の対応に役立てればと考えた。</p>
2	実施責任者	加藤一夫
	研究課題	S-PRGフィラー配合歯磨剤からのミネラル溶出速度と口腔内停滞性の研究
	概要	公表不可
3	実施責任者	有地榮一郎
	研究課題	人工知能ディープラーニング技術を用いた撮影撮影法の評価および最適化
	概要	<p>人工知能(AI)はディープラーニング(深層学習)技術の進歩により、近年医療分野に活用されています。ディープラーニングは、多層ニューラルネットワークを用いたコンピューターの種類で、識別に有効な特徴量を人間が定義することになしに、学習の一環で自動的に獲得します。当講座ではこれまでに、ディープラーニングが顎部リンパ節、上顎洞炎、顎骨嚢胞、歯根破折や埋伏歯などの診断や検出に有用であることを証明してきました。(倫理承認No496, No577)</p> <p>ディープラーニングには画像分類(診断)や物体検出(病変の自動検出)の他に、セグメンテーション(領域抽出)や超解像処理などの技術もあります。学生や研修医の口内法X線撮影の評価は担当インストラクターが評価しますが、評価者間で評価が異なったり、大量の撮影を評価する場合に一定の評価基準を保つことが困難になります。ここで、ディープラーニングを使って、目的とする歯をセグメンテーションし、撮影の可否を評価できればインストラクターの補助にもなり、撮影者に助言を与えることも可能となるでしょう。CT撮影に関して、ディープラーニングを用いて少ない被曝線量で得た低画質画像から高画質画像を画像生成することも、歯科用コーンビームCTから軟組織画像を画像生成することも可能となり、患者の被曝の軽減につながるでしょう。</p> <p>本研究ではディープラーニング技術を用いて、撮影法の評価および最適化を行うことを目的とします。これにより撮影評価の画一化および撮影の最適化を図れるものと期待されます。</p>
4	実施責任者	本田雅規
	研究課題	細胞使用再生医療製品を目指した同種間葉系幹細胞バンクの構築方法についての研究
	概要	<p>歯髄に存在する間葉系幹細胞(以下 歯髄幹細胞)は、骨髄や脂肪に含まれる間葉系幹細胞(MSC)と同様に、多分化能を有し、免疫抑制作用も併せ持つことから、骨髄や脂肪と同様に再生医療の治療における臨床応用が期待されている。本研究の最終目標は、骨髄、脂肪、歯髄から得られる間葉系幹細胞をアカデミアや企業へ安定的に供給する体制の構築を目指した同種骨髄、脂肪、歯髄由来のMSCの樹立方法を確定し、同種MSCバンクを構築することを目的としている。</p> <p>本申請者が所属する口腔解剖学講座は、以前より、歯髄、歯根膜および歯肉から単離したMSCを用いて、臨床応用を目的とした治療法を動物実験にて開発してきた経緯があり、口腔内から採取できる組織から細胞を単離する技術を蓄積してきた。そこで、本研究では、同種MSCバンクの目的を達成するために、本研究の目的は、本学附属病院の歯科および口腔外科の抜歯など手術等で得られる廃棄組織(歯髄・歯根膜・歯肉)を用いて、廃棄組織からMSC単離・培養方法を口腔解剖学講座から株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(以下 J-TEC)社に歯髄・歯根膜・歯肉組織を提供し、技術移転することであり、さらに、それらの技術を標準化することである。</p> <p>一方で、口腔解剖学講座では、J-TEC社で標準化した単離した歯髄幹細胞の特性を、骨髄、脂肪、皮膚から得られる細胞(MSCを含む)と解析比較する。</p>

令和2年度第3回歯学部倫理委員会議事録（案）

日 時：令和2年9月3日（木） 15時00分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第1会議室

出席者：前田、池田、本田、長谷川、杉田、長尾、松原、田淵、高木、黒神、柿田、鏡山、
鈴木（顧問）

（事務）日比、真新、玉置

欠席者：野本

開 会：15時02分

報 告

1. 令和2年度第2回倫理委員会議事録について
委員長から、資料に基づき報告があり、原案どおりこれを了承した。
2. 委員長決裁案件について
委員長から、研究等変更審査申請のあった1件、修正の上承認となっていた2件について、申請書類等の回覧審査を行い委員長決裁による承認とした旨、報告があった。
3. その他
なし

議 題

1. 委員長決裁案件について
委員長から提議され、研究等変更審査申請のあった1件、修正の上承認となっていた2件について委員長決裁で承認したい旨、説明があり、これを承認した。
2. 倫理審査について
委員長から提議され、新規4件の申請があり、申請者から研究の概要及び実施計画等の説明を受け判定したい旨述べられ、これを了承した。
次いで、申請者から資料に基づき説明があり、研究実施計画等について質疑応答があり、それぞれの申請課題について判定を行い、全会一致をもって次のとおり決定した。
修正の上承認2件、条件付承認1件、保留（継続審議）1件とした。
3. 副委員長の選任について
委員長から提議され、長谷川委員を副委員長とすることを承認した。
4. その他
委員長より、研究活動等に関する利益相反（COI）について審議するための大学全体の委員会の設立を再度法人へ要望してほしい旨の要請があり、種々議論の結果、事務局より学部長及び楠元キャンパス担当理事へ相談し対応することとした。

次回委員会について

日時：令和2年11月5日（木）15時

場所：楠元キャンパス 基礎教育研究棟1階 第1会議室

閉 会：16時50分